

ベストクラス選定理由書

作成者：細川陵，三方怜，八木寛人，鎌田寿晃，古田和士，筒井茂喜，藤井良憲

科目名称：教員のための学校組織マネジメントの実践演習（昼間①クラス） (担当教員名： 浅野 良一 ， 川上 泰彦)	
課程：大学院（専門職）	開講時期：前期
授業形態：講義・演習	授業規模：31人～80人
インタビュー対象教員名 浅野 良一 川上 泰彦 (実施日時：令和5年8月23日（水） 10:40～11:35 ; 実施場所：言語社会棟（402教室）)	
インタビュー対象受講者名 宇田さん，大上さん，眞下さん (実施日時：令和5年8月23日（水） 10:40～11:35 ; 実施場所：言語社会棟（402教室）)	
選定理由 【選定理由】 評価項目の平均値が3.75であり高評価を得ていることに加え、本講義は、「講義→講義に関する個人思考→意見交流による協働的な学び（ブレイクアウトによる議論）→個人思考や意見交流を生かした課題レポート等の作成」で構成されている。すなわち、得た知見が整理され、活用されることによって、理解の深まりが促される構成となっている。学生の記述には、「資料を理解する→授業に参加する→課題に取り組む。という流れが分かりやすく、学んだことを整理しながら理解することができた」という内容がみられ、この授業構成が評価されていたことからベストクラスとした。 担当教員及び受講生のインタビューから以下の点に優れた工夫が窺われた。 【担当教員に対するインタビューより】 ・本講義はマッキンゼー&カンパニーの提唱する組織改革論をベースに総論と各論からなる授業構成に加え、授業内容と紐づけされたテキスト資料冊子、フレックスコースも意識した録画資料、デジタル教材の導入など講義外の学ぶ環境づくりも含めた工夫を行っていることが受講生の満足度の高い講義に繋がっている。 ・担当教員は大学院授業として「パラダイム転換型」の時間となるように心がけており、受講生も学校組織を捉える視点の転換が図られることを実感している。また、本講義での学びを受講生同士が日常のコミュニケーションで共有することでより学びの広がりを生んでいる。さらに、本講義での学びを教育現場の課題解決や大学院の生活に活用することをねらい「引きの視点（俯瞰する視点）」で講義内容を焦点化し、受講生の中に「危機感の醸成」や「新たな課題形成」を生み出すことに成功していると考えている。 【受講生に対するインタビューより】 ・本講義では、「組織改革は燃やせるところから燃やす」などの「キーワード」を多く紹介している。受講生はこれらの「キーワード」によって、新たな視点も獲得し、組織改革に対する理解を深めている。この「キーワード」によって、日々の実践や受講生が日々考えていることなどを院生同士の対話や意見交流の中で実際にキーワードを使って語っていくことによって、講義での	

学びが、講義外への広がりを生んでいることが受講生の理解の深まりや満足度に繋がっていると考えられる。

【まとめ】

以上のことから、「パラダイム転換型」の授業づくりを目指す本講義は、院生が新たな視点を得るとともに、配布資料などの工夫により得られた知識が「使われる知識」へと昇華されている。そして、講義外での院生の理解の深まりを授業者がみとり、それを受講生に積極的にフィードバックすることによって「教員と院生が共に授業を創る」という「ベストクラス」の理念が教員と受講生に共有されており、推薦に値すると判断した。